

貝毒プランクトン調査

調査年月日	令和2年5月8日	単位：cells/ml							
種類 ／地点番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
	魚神山	家串	柏崎	室手	平山	外泊	成川	深浦	船越
<貝毒プランクトン>									
アレキサンドリウム属	0	0	0.012		0.090		0.006	0	0
ギムノディニウム・カテナータム	0	0	0.006		0.083		0.993	0	0
ディノフィシス属	0.012	0.001	0		0.008		0.015	0.012	0.049
<有害プランクトン>									
カレニア・ミキモトイ	0	0	0		0		0	0	0
コクロディニウム・ポリクリコイデス	0	0	0		0		0	0	0
ゴニオラックス・ポリグランマ	0	0	0		0		0	0	0
シャトネラ属	0	0	0		0		0	0	0
状況	<p>今回の調査では、成川において危険濃度を大きく上回るギムノディニウム・カテナータムが確認されました(本種の危険濃度は0.1 cells/ml)。また、下痢性貝毒の原因種であるディノフィシス属も前回の調査より増加していました(ディノフィシス・フォルティの危険濃度は500 cells/ml)。</p> <p>御荘湾、柏崎および深浦にて二枚貝の出荷自主規制が講じられています。</p> <p>二枚貝の採取・喫食を控えるとともに、今後の動向にご注意ください。</p> <p>0,3,5 m各層等量混合海水1000 mlを濃縮検鏡。</p>								

